

自己評価票

| 項目                 | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目)   | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |  |
|--------------------|---|--|--------------------------------|--|
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |   |  |                                |  |
| <b>1. 理念と共有</b>    |   |  |                                |  |
| 1                  | ○地域密着型サービスとしての理念<br><br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている      | できる限り地域社会と密着するように地域の行事（小学校の催し、地区の祭等）に参加するように心がけている。また地区のボランティアも受け入れるよう努めている。 | ○                              | 地域にはお年寄りも多い状態で、そのお年寄りにお茶を飲みに来て頂けるようにお誘いするが、皆さん働き者で田畑の仕事が忙しくなかなか来て頂けない。 |
| 2                  | ○理念の共有と日々の取り組み<br><br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                         | 毎月末の午後1, 2ユニット合同の職員会議を実施し理念が実際に実践されているか話し合い、至らぬ点については今後そのようなことが無いよう申し合せている。  | ○                              | 当施設の理念をスタッフルームや職員トイレに貼り常に理念に接するようにしてある。職員会議でもできるだけ話題にしている。             |
| 3                  | ○家族や地域への理念の浸透<br><br>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 家族会や、地域の小学校の音楽会、運動会等に出席し、ボランティアの方の支援を受けたり、地域のボランティアの方に日常的な支援を受けている。          |                                |  |
| <b>2. 地域との支えあい</b> |   |  |                                |  |
| 4                  | ○隣近所とのつきあい<br><br>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 近隣はほとんど農地で外で働く農家の方々と職員ができるだけ接し人間関係を深めていて、農作物を頂いたりしている。                       |                                |  |
| 5                  | ○地域とのつきあい<br><br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている   | 小学校の各種行事に参加したり、地区の子供達と焼き芋大会をやり共に楽しんでいる。また、地域のボランティアの方々の歌や踊りを楽しんでいる。          |                                |  |

| 項目                           | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)             |
|------------------------------|--|---------------------|--|
| 6                            | <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>運営推進会議に地域のボランティア、民生委員、入居御家族に入って頂き認知症の勉強会を実施している。</p>    | ○                   | 認知症の学習会もできるだけ組み入れていきたい。                      |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |  |                     |  |
| 7                            | <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>前年の外部評価を職員会議に配布して評価の比較的低い部分については改善方法を提案してもらい改善している。</p>          |                     |  |
| 8                            | <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>さらにその上に認知症についての勉強会もしている。</p>                     |                     |  |
| 9                            | <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>月1回の市を中心としたグループホーム部会で、市職員、包括支援センターなどと意見交換をしサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> | ○                   | 左記のグループホーム部会の話題、内容について可能な限り介護職員に伝え意識の共有をはかる。 |
| 10                           | <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>成年後見制度が必要と思われる入居者は今のところ皆無である。</p>        | ○                   | 必要と判断した場合は成年後見制度を説明する。                       |
| 11                           | <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>過去に入居をしている母親に異言をはく長男が訪ねて来た時は、2人だけにしないように配慮した。</p> | ○                   | 入居者と御家族は皆良い関係である。                            |

| 項目                     |   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取り組んでいき<br>たい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                 |
|------------------------|---|---|-------------------------|--|
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |   |   |                         |  |
| 12                     | ○契約に関する説明と納得<br>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている            | 契約するときは契約書について時間をかけて説明し納得して頂いている。それぞれの事情があって退所する場合、完全に同意を得て、退所先をお世話する。          |                         |  |
| 13                     | ○運営に関する利用者意見の反映<br>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている           | 年に1回御家族に対する匿名のアンケートを実施している。極めてご満足を頂いている。  | ○                       | 投書箱の設置も考えている。匿名のアンケートも実施しているので屋上屋にならないかと迷っている。   |
| 14                     | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている         | 預金の収支については月末に領収書を添えて報告する。職員の移動、行事などはホーム新聞を毎月発行して報告している。                         | ○                       | 御家族より、会計が極めて明朗であるとの声がかい。                         |
| 15                     | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている           | 年1回御家族に施設に対する匿名のアンケート調査を実施し、意見などほぼ完全に把握している。職員は皆、御家族の言葉に耳を傾け不満っぽいものがあれば直ちに反応する。 | ○                       | 投書箱の設置も考えている。                                    |
| 16                     | ○運営に関する職員意見の反映<br>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                       | 月1回の職員会議、日々日常、職員の意見に耳を傾け必要性の高いものは即実行に移す。  | ○                       | 職員会議以外でも日常的に職員が運営者に気軽に意見を述べられるような雰囲気づくりに気を配っている。 |
| 17                     | ○柔軟な対応に向けた勤務調整<br>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 職員数が十分でない現状では、要望に柔軟に対応することは困難であるが、可能な限り対応している。1. 2ユニットを1人で見る夜勤は過酷な勤務である。        |                         |  |

| 項目          | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいきたい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                 |
|-------------|--|--------------------|---|
| 18          | <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>原則として第1ユニット、第2ユニットと職員の移動はほとんどない。各ユニット共に入口に職員の写真と氏名を提示し、御家族に対しても顔と氏名を一致していただくように工夫している。</p>        | ○                  | 職員の移動を極力おさえ、ユニット間の移動もほとんどしていない。                 |
| 5. 人材の育成と支援 |  |                    |   |
| 19          | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> <p>月1回職員の大部分参加の職員会議を開き、その中で、介護の研修に十分時間をとっている。</p>   |                    |   |
| 20          | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> <p>NPO法人グループホーム連合会に加入し講習会、ホーム相互訪問を実施している。また、各グループホームの職員間で話し合いの会を開いている。また、小諸市主催のグループホーム部会で検討会を開いている。</p> | ○                  | 同業者の交流をすすめている。職場の相互訪問も実施している。                   |
| 21          | <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> <p>運営者（担当理事）は職員とできるだけユーモアを交えた会話を多くもち、職員と人間関係を深め、ストレス軽減に努めている。</p>  | ○                  | 運営者は、職員に対して思いやりの気持ちで接している。自由にものが言える雰囲気作りに勤めている。 |
| 22          | <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> <p>運営者は職員と一緒に過ごし職員を言葉遣いや利用者に接する優しい物腰に気付くと褒めて励ましている。</p>  | ○                  | さらに利用者の尊厳を向上させる対応を実施するよう取り組みをしている。              |

| 項目                               | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取り組んでいき<br>たい項目)  | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |  |
|----------------------------------|---|--|----------------------------------|--|
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>       |   |  |                                  |  |
| <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b> |   |  |                                  |  |
| 23                               | ○初期に築く本人との信頼関係<br><br>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている                   | ケアマネージャーが十分な時間をとり本人の現状や不安なことなどをお聞きして不安の解消に努めている。不安がほとんどなく、安心した状態で入所するように努めている。       | ○                                | 時々落ちつかなくなる利用者には時に、『嘘も方便』で安心して頂けるよう努めている。                         |
| 24                               | ○初期に築く家族との信頼関係<br><br>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている                        | 運営者及びケアマネージャーが十分時間をとり御家族が困っていること聞きとりその解消に努め、この情報は職員全員が共有し、それを念頭におきながら仕事をするよう努める。     | ○                                | 入所してからも御家族が来訪されたとき又は、電話等で連絡を取り合い要望を聞いた対応をしている。                   |
| 25                               | ○初期対応の見極めと支援<br><br>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                                | 23、24項目に記したうち特に必要で緊急な支援については毎日実施しているミーティングの時に連絡し対応方法を考えるよう努めている。                     |                                  |  |
| 26                               | ○馴染みながらのサービス利用<br><br>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入所前に本人の性格、人柄を十分に調べそれに対応した処遇を職員間で検討して対応する。  | ○                                | 入所前に御家族、御本人に当施設に来て頂きケアマネージャーを中心に職員が施設の特徴を説明し安心感を持ってもらえるように努めている。 |
| <b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b> |   |  |                                  |  |
| 27                               | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                        | 厨房のお手伝いをして頂くときなど漬物の漬け方や味付けなどを教えてもらいながらプライドを持ってもらうようにしている。洗濯物たたみも職員も一緒に冗談を言いながら行っている。 | ○                                | 冗談を言い合える関係をさらにすすめ笑顔の絶えない職場にしたい。                                  |

| 項 目 |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取り組んでいき<br>たい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                              |
|-----|--|---|-------------------------|---|
| 28  | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている         | 御家族が本人を散歩にお連れしたり昼食や夕食にお連れして本人を支えて頂いている。   | ○                       | 御家族の来訪のおりには、必ずお茶をお出しし、職員も出席できる時間を持ち、御家族との人間関係をより深める努力をしている。   |
| 29  | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援<br>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している             | 今までの経験によると本人と長男の嫁との人間関係が悪化している場合がよく見かける。その仲をとりもち、本人は嫁の良い点を指摘して褒め、また、嫁には、本人は本心では嫁に感謝の気持ちを持っていることを伝えたりして仲直りをする場合が時々あった。 | ○                       | 本人の団欒している写真や本人のユーモアのある行動などを御家族との対話の時にお話し、本人の家族の関係をより確かなものにする。 |
| 30  | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている               | 住んでおられた家の近くにドライブに行ったり、知人、友人が来訪したときは大いに歓迎して接待するようにしている。しかし、入所が長引くと知人、友人の来訪の足が遠のき残念である。                                 | ○                       | なかなか馴染みの方々には来て頂けないので車で、馴染みの街や、住宅周辺をドライブするようにしている。             |
| 31  | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている              | リビングでの本人の座席を気の合った利用者の隣にすると2人で会話を楽しまれる姿が見られ心が温まる。  |                         |   |
| 32  | ○関係を断ち切らない取り組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 同じ医療法人の病院や老健施設に移る場合が多くあり職員がお見舞いに行ったり、御家族がグループホームを訪問することもある。   | ○                       | グループホームを退所して入院後亡くなったような場合、葬式に参列するようにしている。                     |

| 項目                                    | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいきたい項目)   | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)            |
|---------------------------------------|---|--|--|
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>    |   |  |  |
| <b>1. 一人ひとりの把握</b>                    |   |  |  |
| 33                                    | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している  | 本人が何を望んでいるのかを探り望みを伝えることができる方はできるだけ望むことを職員間で話し合い対応する。伝えることが難しい方はこれまでの生活歴や行動などからさぐり対応している。 |  |
| 34                                    | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                    | 各人に生活史録表を作成して入所までの人生の概略の把握に努めている。  | ○<br>生活史の中で人生で最も得意だった時代をできるだけ話題にして心を癒して頂く。 |
| 35                                    | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている  | 常に利用者の認知症の程度ならびに身体状況の程度を観察しその人に適する対応をしている。   | ○<br>その人の誇り、自尊心の傷つけない配慮しながらの対応。            |
| <b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b> |   |  |  |
| 36                                    | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している    | 本人が意志伝達できる方は望むことを介護計画に取り入れ、意志伝達が不可能な方については、家族の意思や、本人が生きてきた背景から読み取り介護計画を作成している。           |  |
| 37                                    | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画作成者は御家族と介護職員の意見を聞き又、計画作成後も必要に応じ見直しを行っている。  |  |

| 項 目                                |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取り組んでいき<br>たい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)               |
|------------------------------------|--|---|-------------------------|--|
| 38                                 | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている    | ケアプラン担当者が御家族や職員と情報を共有して必要に応じて同意を得ながらケアプランの見直しを行っている。ケアプランや、個別記録の情報を頭に入れ日々の介護を行っている。 |                         |  |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |  |   |                         |  |
| 39                                 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている              | 宿泊を希望される家人のために簡易ベッドやクリーニングをした布団類を準備をしてある。   |                         |  |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |  |   |                         |  |
| 40                                 | ○地域資源との協働<br>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している             | 地区消防団に施設を案内をし、万一の場合の出動の有効性を高めている。地区民生委員には、運営推進会議員になって相談にのっていただいている                  | ○                       | 小学校の交流以外に今後中学校との交流を深める中で生徒たちに認知症に対する理解の一助にしたい。 |
| 41                                 | ○他のサービスの活用支援<br>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている  | 特に入院時、本人の状態・家人の意向等考慮しながら退院後のサービス利用について担当ケアマネ、病院の担当者、他の施設の担当者の話し合いなどで最良の方法をとる。       |                         |  |
| 42                                 | ○地域包括支援センターとの協働<br>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 入居前の状況等の情報提供やサービス利用についてのアドバイス等を頂きながら協力している。   |                         |  |

| 項目 | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取り組んでいきたい項目)   | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)  |
|----|--|---|---|
| 43 | <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>   | <p>御家族の同意を得ながら必要に応じてかかりつけ医の受診を受けるようにしている。看護師の職員が同伴する。</p>                                   | <p>○</p> <p>看護師の経験から本人の状態により適した精神科医を進める場合がある。</p>   |
| 44 | <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>  | <p>看護職員が認知症に特に詳しい精神科医を御家族に紹介したり看護師本人が治療にお連れしたりして多くの利用者の病状が軽減している。</p>                       |   |
| 45 | <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>   | <p>職員の看護師が日常的に入居者と接しているので気軽に相談できる状況である。</p>   |   |
| 46 | <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>                      | <p>同じ法人内の診療所に入院するケースが多く近くでもあるので看護師や介護職員がまめに見舞いに行き病状や予後のことについての状況を知ることができる。</p>              | <p>○</p> <p>足の骨折の場合予後をお聞きしグループホームを退所する形をとり、同じ法人内の老健に入所してリハビリに専念して頂き一定程度回復した後再びグループホームに入所して頂く。</p> |
| 47 | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>                                   | <p>医師や看護師が中心となり「重度化した場合における対応に係わる方針」を作成し、文章を職員全員に配り読み合わせなどをして方針を共有している。</p>                 |   |
| 48 | <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | <p>看取りを1回経験したが終末に近づくとつれて大変苦しめたがホームでは緩和ケアが十分にできないので診療所に移って頂いた。施設で看取りできるかどうか予後を見極めるのは難しい。</p> |   |

| 項 目                                  |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                     |
|--------------------------------------|--|--|------------------------|---|
| 49                                   | ○住み替え時の協働によるダメージの防止<br><br>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 入院や老健、特養に移り住む場合本人がパニックにならないように家族や職員が十分に話し合って対応している。  | ○                      | グループホーム内のそれまでの経過はできるだけ詳しく情報提供書に記入し移転先にお渡しするようにしている。 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>     |  |  |                        |   |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>               |  |  |                        |   |
| <b>(1)一人ひとりの尊重</b>                   |  |  |                        |   |
| 50                                   | ○プライバシーの確保の徹底<br><br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                                       | プライバシー保護については契約書に明記し実践している。本人が誇りとしていることについては、時々本人との会話の中で話題にし本人に自尊心をもつように工夫している。                        |                        |   |
| 51                                   | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br><br>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている                   | 本人の日常的な言動をよく観察して希望していることを推測し、それに沿うように努めている   |                        |   |
| 52                                   | ○日々のその人らしい暮らし<br><br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している                         | 車での外出や合唱、掃除の手伝い、ボール遊びなど本人が希望しない場合は強く勧めたりはせず、仲間と会話を楽しまれたり居室にて休んで頂いたりしている。                               |                        |   |
| <b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |  |  |                        |   |
| 53                                   | ○身だしなみやおしゃれの支援<br><br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている                                    | お化粧を好む入居者にはお化粧の手伝いをしたり、服装のおしゃれの手伝いをしたりしている。理・美容は理容師の出張にてホームですて頂いているが、掛かりつけの所を希望されている方は御家族に連れて行って頂いている。 |                        |   |

|                               | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|---|---|------------------------|--------------------------------|
| 54                            | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 日常の会話の中で好みを推測しできるだけ好みに沿うように献立を立てている。身体状況の良い方には大いに料理の手伝いをして頂いている。また、本人はそれを誇りにしている。 |                        |                                |
| 55                            | ○本人の嗜好の支援<br>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している           | 本人の希望により日常的に酒、ビールを楽しんで頂いていたが、現在は希望者がおらず出していない。ただし、非喫煙者が入所の条件になっているので煙草は誰も吸っていない。  |                        |                                |
| 56                            | ○気持ちよい排泄の支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している       | 排泄のパターンを常に頭に入れて介護を行っている。しかし、便秘傾向がみられる方に関しては下剤を内服して頂いているが調整が難しい場合もある。              |                        |                                |
| 57                            | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | それ以前に入浴を拒む利用者がいて困っている。施設長の印を押した『入浴予約券』を作り「娘さんのおいでの際に購入したものですよ」と言ってお風呂の掛けを行っている。   |                        |                                |
| 58                            | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している                    | リビングで歌やボール遊びに疲れたような方には声をかけて居室にて横になり休んで頂いたりしている。                                   |                        |                                |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |   |   |                        |                                |
| 59                            | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 若い頃お茶の先生をしていた方には皆さんにお茶を入れて頂いたり、歌の好きな方には合唱をリードして頂いたりして張り合いや喜びを感じて頂いている。            |                        |                                |

| 項 目             |   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-----------------|---|---|------------------------|---|
| 60              | ○お金の所持や使うことの支援<br><br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している         | 認知症が進行しお金を管理できなくなる方はほとんどいなくなった。お金はこちらで管理しスーパーに買い物に行くとき一緒に行き欲しいものを買う経験をして頂いている。      | ○                      | 市内の知的障害の方の作業所で作ったパンを販売に来て頂き一緒に選んでお金を支払って頂き少しでも買い物の経験をしてもらうような試みを始めたのが今後も続けたい。 |
| 61              | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                           | 一人だけで外出し帰って来れる方は一人もいない状況。外出は数人集団で職員が付き添って近くの公園に行ったり車でふれあい動物園や絵の好きな方は美術館にお連れしたりしている。 |                        |   |
| 62              | ○普段行けない場所への外出支援<br><br>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している        | 上記で述べたようにできるだけ外出するように心がけると共に遠方の公園に桜の花見や梅狩りなどに出かけるように心がけている。                         | ○                      | ボランティアの方や小学校などとの交流を深めていく中で一緒に外出する機会をもっと作りたい。                                  |
| 63              | ○電話や手紙の支援<br><br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている                                  | 手紙の読み書きできる状況の方は少なく、友人などから手紙が来たときは読んでさしあげて、家に電話を希望があったさいは、職員が電話のボタンを押してさしあげ話をして頂く。   |                        |   |
| 64              | ○家族や馴染みの人の訪問支援<br><br>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している                   | 入居が長引くと家族親戚以外はほとんど来訪者がいない。しかし来訪者には個室又はリビングで必ずお茶を入れて接待に心がけている。                       |                        |   |
| (4) 安心と安全を支える支援 |   |   |                        |   |
| 65              | ○身体拘束をしないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は全くしていない。しかし玄関だけは危険防止のため暗証番号で外に出られないようにしている。                                    |                        |   |

| 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                             |
|--|---|------------------------|---|
| 66<br>○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる     | 玄関は、暗証番号付きにしてあり、利用者は1人で出られないようになっている。玄関については、建物の構造上死角にもなってしまい利用者の生命の危険にも繋がるので仕方のないと考えている。 | ○                      | 徘徊をしている利用者が居室に入るのを嫌って内部から鍵をかける方もおられるが外からも職員が鍵を開けられるようにしてある。 |
| 67<br>○利用者の安全確認<br>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している              | 特にトイレのカーテンはプライバシーを守るための工夫をしてある。   |                        |   |
| 68<br>○注意の必要な物品の保管・管理<br>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている        | 洗剤、特に塩素系のものを厳重に管理している。その他に刃物の管理にも十分に注意している。   |                        |   |
| 69<br>浮く芽<br>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる               | 玄関の暗証番号の取り付けにより行方不明は考えられない。喫煙・線香・ローソクの禁止。マッチ所持禁止。キッチンのオール電化など火災の原因になるものは無い。               |                        |   |
| 70<br>○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている               | 全職員に人工呼吸の訓練を定期的に行っている。  |                        |   |
| 71<br>○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回避難訓練を夜間も含め実施している。地区消防団、近隣住民の協力も頂き、分担も決めている。  |                        |   |

| 項 目                       |  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|---|------------------------|---------------------------------|
| 72                        | ○リスク対応に関する家族等との話し合い<br>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | その方の身体的レベルの低下や認知症症状の低下により、リスクの可能性のあると考えられることは説明している。                                  |                        |                                 |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |  |   |                        |                                 |
| 73                        | ○体調変化の早期発見と対応<br>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている           | 毎体温・血圧・脈拍を測定し体調の訴えや元気さの程度を観察し必要に応じて受信する。  |                        |                                 |
| 74                        | ○服薬支援<br>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている       | 看護師が医師の処方と指導のもと介護職員に薬の十分な説明をし誤りの無いよう努めている。又、一人ひとりの内服薬を一冊のファイルにまとめ職員がいつでも確認できるようにしている。 |                        |                                 |
| 75                        | ○便秘の予防と対応<br>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる         | 水分を多めに摂取して頂いたり、あまりにも便秘しやすい方については、センナ茶や下剤を使用し散歩や腹部のマッサージなど対応している。                      |                        |                                 |
| 76                        | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている                   | 毎食後必ず口腔ケアを実施している。自立度の高い利用者に対しては見守りで、自立度の低い方には職員が介助にて行なっている。                           |                        |                                 |
| 77                        | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている      | 献立は管理栄養士に見て頂いている。3度の食事時、2回のお茶の時間に十分な水分摂取に努めている。                                       |                        |                                 |

| 項目                      |   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|---|------------------------|---------------------------------|
| 78                      | ○感染症予防<br>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）   | マニュアルを作成して職員各自に渡してある。又、対でステーションにもみられるように備付けてある。                                   |                        |                                 |
| 79                      | ○食材の管理<br>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている  | 買い物は週2回行き行く前には重複しないように確認と、週1回は期限切れがないか確認している。毎食後食器類は食洗機にかけ、まな板と包丁は毎日食後に食洗機にかけている。 |                        |                                 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり |   |   |                        |                                 |
| (1)居心地のよい環境づくり          |   |   |                        |                                 |
| 80                      | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫<br>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている                              | 玄関にはユーモラスなフクロウの木彫り立像とベンチを配置し、利用者や近隣のお年寄りも気軽に腰掛けられるようにしてある。                        |                        |                                 |
| 81                      | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには季節の花を飾ったり絵を飾ったりと工夫している。リビングの天窓から今の時期は朝食の時間帯前後に朝日の差込があり眩しい。                  | ○                      | 天窓からの日光の差し込みを遮る工夫をしたい。          |
| 82                      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている                              | 廊下に固定のベンチを配置し1人で又は、2～3人で腰掛けて世間話ができるようにしてある。また、6畳弱の日本間でコタツにあたりながら数人で話を楽しむことができる。   |                        |                                 |

| 項目                     | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ○印<br>(取組んでいき<br>たい項目) | 取組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                              |
|------------------------|---|------------------------|--|
| 83                     | <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | ○                      | <p>家族や家の写真、風景の写真など飾ると里心が付かないかと心配する御家族もいらっしゃるので難しい問題でもある。</p> |
| 84                     | <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>        |                        |  |
| (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり |   |                        |  |
| 85                     | <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>                |                        |  |
| 86                     | <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>                          |                        |  |
| 87                     | <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>                                  |                        |  |

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

| V. サービスの成果に関する項目 |   |   |
|------------------|---|---|
| 項 目              |   | 取 り 組 み の 成 果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)                           |
| 88               | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる                     | ○ ①ほぼ全ての利用者の<br>②利用者の2/3くらいの<br>③利用者の1/3くらいの<br>④ほとんど掴んでいない |
| 89               | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある                        | ○ ①毎日ある<br>②数日に1回程度ある<br>③たまにある<br>④ほとんどない                  |
| 90               | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている                           | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 91               | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている                | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 92               | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている                          | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 93               | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている                    | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 94               | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている           | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 95               | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている | ○ ①ほぼ全ての家族と<br>②家族の2/3くらいと<br>③家族の1/3くらいと<br>④ほとんどできていない    |
| 96               | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている                | ○ ①ほぼ毎日のように<br>②数日に1回程度<br>③たまに<br>④ほとんどない                  |

| 項 目 |   | 取 り 組 み の 成 果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)                           |
|-----|---|---|
| 97  | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ ①大いに増えている<br>②少しずつ増えている<br>③あまり増えていない<br>④全くいない           |
| 98  | 職員は、生き活きと働いている  | ○ ①ほぼ全ての職員が<br>②職員の2/3くらいが<br>③職員の1/3くらいが<br>④ほとんどいない       |
| 99  | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                           | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                       | ○ ①ほぼ全ての家族等が<br>②家族等の2/3くらいが<br>③家族等の1/3くらいが<br>④ほとんどできていない |

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

**[1]防火の徹底**

①入居者・職員共に喫煙を禁止 ②仏壇でのローソク・線香の禁止 ③ライター・マッチの所持禁止 ④キッチンのオール電化 ⑤建物周りの可燃物の撤去  
⑥万一の出火時、外部より入る工夫 ⑦冬期想定を含む年2回の防火訓練 ⑧地区消防団との連携 ⑨近隣住民との連携

**[2]花壇・菜園等の重視**

・花壇3箇所の活用 ・菜園(なす、トマト、ピーマン、スイカ、菘、きゅうり、インゲン、オクラ、ほうれん草、大根、うぐいす菜)の活用  
・イチゴ畑・・・毎年イチゴ狩り実施 ・ブルーベリー・・・ブルーベリー狩りを楽しむ ・鶏の飼育 等